

Lead

All roads lead to the future リード



高知大学
Kochi University

コミュニケーションペーパー
2015 Autumn 秋号

¥0
TAKE FREE

〈特集〉

企業を見る目を磨く

「中小企業の魅力探究」—経営学特殊講義—

SUIJI サービスラーニング・プログラム

四国とインドネシアの学生が農山漁村で密度の高い交流体験



キラ星高知大生
「サスケくん」にインタビュー

研究成果が世界的評価

海洋コア総合研究センター教授参画の2チーム

Labo通信

楽譜に込められた思いに迫る!

Action! 地域×高知大学

農学部演習林

トレイルランニングレース

高知大学ニュース

企業訪問/兼松エンジニアリング(株)

高知大学で開催するイベントをご紹介します。

イベントインフォメーション

Event information 2015 Autumn 秋号

●11月1日(日)・11月2日(月)

朝倉キャンパス「黒潮祭」

テーマは「結寿(ゆず)」
めでたいこと「寿」でみんなを「結」んで
いきたいという気持ちを込めました。
今年も沢山の模擬店やイベントを企画
しています。ぜひお越しください!

時間 1日(日)… 9:00~20:00
2日(月)… 10:00~20:00
場所 高知大学朝倉キャンパス
TEL:088-844-8150



●11月1日(日)

第6回ホームカミングデー



黒潮祭と同時開催!カツオのたたき実演も
あります。各学部のイベントを3つのキャンパスで開催。今年の記念講演は、(株)デューク取締役会長宮垣睦男氏に、8年間の学生生活から始まった高知での半生についてお話いただきます。皆様のお越しをお待ちしています。

時間 13:40~14:00 記念式典/14:00~15:00 記念講演
15:30~16:30 懇親会
場所 高知大学朝倉キャンパス
講師 宮垣睦男氏 高知大学農学部卒業
株式会社デューク取締役会長
演題 「DUKEの原点は212番教室からはじまった!」
※詳しくは「高知大学総務部総務課」まで TEL:088-844-8116



●11月3日(火)

物部キャンパス「一日公開」

キャンパス特産の農産物の試食・販売や人気のト
レーラー体験コーナーから、海洋コア総合研究セン
ターや遺伝子実験施設での最先端の研究に触れら
れる催しまで、高知大学を身近に感じられる催しが盛
りだくさん!お問い合わせの上、是非お越しください。

時間 9:00~15:00
場所 高知大学物部キャンパス
TEL:088-864-5114



11月28日(土)・29日(日)
第55回室戸貫歩開催!



メルマガ
配信中!
月2回配信(第2・4金曜日)

高知大学からメールマガジンを配信して
います。大学の「入試情報」から「あれこれ
(これは面白い)」まで!!
登録はこちら <http://daigakujc.jp/kochi-u>



●お問い合わせ先 皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。

高知大学
Kochi University

高知大学広報戦略室

高知大学

検索

<http://www.kochi-u.ac.jp/>

TEL.088-844-8643 FAX.088-844-8033

〒780-8520 高知市曙町2-5-1 E-mail:kh13@kochi-u.ac.jp

2015年度定期公演

11月8日(日) 高知大学交響楽団
第56回 高知大学交響楽団
定期演奏会

時間 開場13:30/開演14:00
場所 高知県民文化ホール(オレンジ)

11月15日(日) 高知大学吹奏楽団
第33回 高知大学吹奏楽団
定期演奏会

時間 開場17:00/開演17:30
場所 高知市文化プラザかるぼーと(大ホール)

11月21日(土) ギターマンドリンクラブ
第56回 高知大学マンドリン
クラブ定期演奏会

時間 開場18:00/開演18:30
場所 高知県民文化ホール(グリーン)

12月5日(土) 邦楽部
第45回 高知大学邦楽部
定期演奏会

時間 開場18:00/開演18:30
場所 高知県民文化ホール(グリーン)

12月5日(土) 奇術部 Trick or Treat
第15回 マジシャンズ
パーティー

時間 開場18:30/開演19:00
場所 RKCホール

12月12日(土) 高知大学合唱団
第44回 高知大学合唱
定期演奏会

時間 開場17:30/開演18:00
場所 高知県立美術館ホール

12月12日(土) 高知大学演劇研究会

第44回 高知大学演劇研究会定期公演

時間 開場18:00/開演18:30 場所 高知市文化プラザかるぼーと(小ホール)

平成28年度 高知大学入試案内

●推薦入試Ⅰ(出願期間)

平成27年11月1日(日)~5日(木)

人教(教育学・教科教育、特別支援教育、音楽教育、美術教育、保健体育教育)
理医(看護) 農(暖地農学、森林科学、生産環境管理学) 地

●推薦入試Ⅱ(出願期間)

平成27年11月1日(日)~5日(木) …… 医(医)

平成28年1月19日(火)~22日(金) …… 教(幼児教育、教育学・教科教育) 農

●AO入試Ⅱ(出願期間)

平成28年1月19日(火)~22日(金) …… 教(科学技術教育) さ(グリーンサイエンス、生命・環境)

●一般入試 前期日程・後期日程(出願期間) 平成28年1月25日(月)~2月3日(水)

高知大学の最新情報を伝えたい

THE こうち
ユニバーシティCLUB

FM 高知 81.6MHz 毎週日曜日 放送中
(9:30~9:55)

高知大学のHPから過去放送分も視聴できます!

http://www.kochi-u.ac.jp/outline/kouhou/radio_fm_kochi/
高知大学の教育、研究、地域貢献等の
ホットな情報をお届けします。

スポンサー企業
高知銀行/構営技術コンサルタント
相愛/ソフテック/アルフレッサ篠原化学



企業を見る目を磨く

「中小企業の魅力探究」―経営学特殊講義―

「特集1」

就職といえば、狙うのは大手企業、あるいは公務員……。そんな傾向が強い学生の就活に警鐘を鳴らす講義が、この夏、行われました。

大手企業だけ？そんなの絶対もったいない！

今年で3回目の経営学特殊講義「中小企業の魅力探究」。学生たちが高知県内の中小企業を訪問し、特徴や魅力を探ろうというものです。なぜ、このような講義が始まったのでしょうか。

「だって、もったいないでしょ」とききばりと話すのは、講義を担当する中道一心先生です。

「日本の企業の99.7%が中小企業で、そこで雇用されている人は約70%に上りますが、学生たちは中小企業のことをよく知りません。しかし、中小企業にもいい会社はたくさんある。将来の進路を考えた時に、選択肢に入れないのはもったいない。そこで、学生たちの企業を見る目をもっと養いたいと思い、始めました」



参加企業の前で説明する学生



兼松エンジニアリング(株) 工場見学

学生たちは3、4人のグループを組み、2日間わたって、高知県内の中小企業4社を訪問。会社では製造現場などを見学するほか、企業の経営者、中堅社員、若手社員の3者に対して取材をし、経営理念や企業内容を聞き取って企業の強みや魅力を探っていきます。

この講義の大きな特徴は、学生の指導に企業の信用調査を業務とする帝国データバンクの高知支店の調査員が参加していることです。

「ほかから研究者の学術調査とは違う、調査会社ならではの取材力に期待しました。帝国データバンクは企業側と話をする際、

経営や労働環境が健全かどうかをピンポイントで突いていく聞き方をします。そうした実践的な調査方法を知り、身につけることは就活だけでなく、学生が社会人になつてからも役に立つでしょう」

講義では企業訪問前に企業調査の方法やビジネスマナー、質問技法などに関する講義が行われ、帝国データバンクの調査員のノウハウが提供されます。

「企業研究ができて、調査のノウハウも教えてもらって、さらに単位も取れる！」(笑)。こんなお得な講義はありません。帝国データバンクがこのような形で関わっているのはうちだけで、全国的にもとても珍しい講義です」

企業の採用活動は学生を知ることが鍵

企業訪問に協力してくれる県内企業は20社。製造業から流通、サービス業とさまざまな業種が学生の訪問を受け入れています。

「高知にはいい企業がたくさんあります。」

銘を受けた」などの言葉が、学生たちから語られました。

「この講義には高知県立大、高知工科大、県内の専門学校、そして県外の大学に通う高知県出身者も参加しています。今後はもっと県外の大学から参加してもらいたいですね。それから、職業観を身につけるという意味では小・中・高での学びが大切だと思います。出前授業のような形で、この講義の受講生が小・中・高校生の前で報告会のような発表をするのもいいかもしれません。いろいろな試みにより、この講義が生む価値をより広い地域に波及させていきたいと考えています」

すでに、過去に受講した学生のなかには、中小企業を就活の選択肢に入れたり、実際に県内企業に就職する者がいたり、講義の効果が表れています。学生の未来の活躍の場を増やす講義として、今後の広がりが期待されます。

学生の目線がわかる報告会での発表

講義の最終日には、学生に加えて、協力企業の方や報道関係者なども集まる「報告会」を開催。今年は8月22日に行われました。中道先生曰く「企業が学生の考えを知る格好の機会」とのこと。学生は1人1社か2社、企業の強みや今後のビジョン、社長や社員から聞いた言葉、自分から見た企業の魅力などを発表しました。

「社員の平均年齢が若く、元気がある会社」「現状に満足しないハングリー精神にあふれている」「自由な社内文化があり、本気の社内恋愛はOK」「与えられる人よりも与える人になりなさい」という社長の言葉に感

たたとえば技術力が優れていた、市場のニーズに柔軟に対応していたり……。また、女性が多かったり前に働き続けることができる仕組みをつくっている会社もある。製造業に関して言えば、物流で不利な高知県では、どこでも売っているものをつくっては勝負にならない。そこで、ほかにはない商品をつくる視点や技術が進んだのではないだろうか」

また、この講座では、学生の教育のほかに「裏テーマ」として中道先生は話します。

「中小企業には人が集まらないと言われるますが、中小企業だから仕方ない……と言ってしまうなら思考停止になる。もともと企業の

教育研究部 人文社会科学系
人文社会科学部門
准教授

なかみち かし
中道 一心

大阪府に生まれ育ち、2008年に高知大学に着任するまでは大阪を離れたことがないという大阪人。同志社大学商学部卒業、同大学大学院商学研究科修了。主な研究テーマはデジカメ産業の国際競争力と、企業と地域の持続的発展モデルの探求。

協力企業一覧(順不同)

井上石灰工業(株)
(株)第一コンサルタンツ
アルフレッサ篠原化学(株)
構宮技術コンサルタント(株)
(株)高知通信機
澁谷食品(株)
(株)高知丸高
(株)エースワン
(株)日産サティオ高知
宮地電機(株)
ミタ二建設工業(株)
(株)あさの
中澤氏家業(株)
(株)かね岩海苔
(株)アイビス
(株)インターナカツ
兼松エンジニアリング(株)
廣瀬製紙(株)
宇治電化学工業(株)
(株)ファースト・コラボレーション



全国でもほとんど例のない
非常にグローバルなプログラム

高知大学には他の大学と協働して行う教育プログラムがありますが、その中に、日本とインドネシアを舞台に実施される個性的なプログラムがあります。「SUIJI」というコンソーシアムの中で、学部学生を対象に実施する「サービスマーケティング・プログラム」(地域の課題に貢献しながら学ぶ実習です。SUIJI推進室長である大谷和弘教授に、こういった取り組みなのかをお聞きしました。



インドネシア・ジョグジャカルタの農村でのホームステイではガジャマダ大学の学生たちがサポートしてくれる。※1



現地の小学校を訪問。どの子どもたちも、屈託ない笑顔で迎え入れてくれる。※2

特集2
6大学協働
コンソーシアム



「SUIJI」とは「Six University Initiative Japan Indonesia」の略。2011年に創設した、インドネシア3大学(ガジャマダ大学、ボゴール農業大学、ハサヌディン大学)と四国3大学(愛媛大学、香川大学、高知大学)の6大学のコンソーシアム(共同の目的を持った集団)。熱帯地域の農業発展及び生物資源の保全に貢献し、ひいては地球規模の環境問題に貢献するため共同教育・共同研究等を実施。

SUIJI
サービスマーケティング・
プログラム

四国とインドネシアの学生が
農山漁村で密度の高い交流体験。



現地の言葉(ジャワ語)はほとんど理解できないが、それでも道行く村びとに笑顔で話しかけてみる。※3

※1〜3 / インドネシア共和国
ジョグジャカルタ特別州グヌン・キドウル県
にて撮影

「アドバンスト」コースは主にベシックを経験した学生が、より踏み込んで、大学で学んだ専門的な知識をどう活かすか、ということが重要なテーマの1つになります。いずれのコースでも、学生たちは毎晩、地域でどのようなことができるのか、真剣に話し合っているそう。

守らない」といった嫌なところも見えてくるのだとか。

「たとえば、観光客が集まる割には、意外に観光情報が少ないので、ポータルサイトを立ち上げてはどうか。海外からダイバーを呼び込むため、英語表記の案内板を作ってはどうか」という提言もありました。また、これは地元からの要望があったのですが、学生たちが撮影した写真を使って、簡単な絵葉書を作ったりもしましたとのこと。この絵葉書は好評で、島で暮らす人たちにとても喜ばれたそうです。

世界の多様性に気づき、
多角的な見方のできる
新しいリーダーに

国境や大学の枠を超え、理系や文系が一緒になって、密な交流をしながら学ぶSUIJI・SLP。参加した学生たちの得られるものは非常に大きいといえます。特にほかの授業では体験できないのが、インドネシアの学生たちとのふれあい。交流の初めの頃はただ楽しさを感ずるようですが、そのうちに「時間を

人、インドネシア40人の計114人が参加しています。非常にグローバルなプログラムであることから、最近では知名度が上がり、「SUIJI・SLPに参加したくて高知大学に来ました」という学生も見られるそうです。

四国とインドネシアの
特色ある地域に滞在し
学生が主体的に活動

SUIJI・SLPに参加すると、まず座学で基礎的なことを学んでから、国内・インドネシアで行われるサービスマーケティングにのぞみます。



国内サービスマーケティング・プログラムに参加する学生のグループディスカッション。自分たちが見た、聞いた、感じたことを共有する。



サービスマーケティング「安田サイト」に参加した
学生たちに聞きました。

夏休み期間中、SUIJI・SLPの国内サービスマーケティングが行われました。安田サイトでは日本人学生9名、インドネシア人学生5名が参加し、地域の年間行事や農業のサイクル、暮らしの技、生活の知恵などの情報を収集。「持続して生活するには、次の世代につなげるにはどうしたらいいのかを考えました」(SUIJI推進室特任助教、藤野紀子先生)

自分を
成長させてくれる
SUIJI

農学部
農学科 1年
岡本 晴佳さん



座学の「地域未来創成入門」で学んだことについて、実際に地域を見て考えてみたいと、この安田サイトに来ました。地域を広く散策して、話をいっぱい聞かせてもらい、一緒に田舎饅頭や田舎寿司も作らせてもらいました。そうしたなかで、とても強く感じたのは、おじいちゃん、おばあちゃんがなんでも笑顔で迎えてくれるんだらう、ということです。SUIJIのプログラムで学び、知らない世界に触れることによって、自分が成長できるのではないかと、思っていました。少しは成長したような気がします、どうでしょう(笑)。

ゆったりした
暮らしに感動

農学部
農学科 1年
若下 優帆さん



農学部の勉強では「持続可能な社会」が重要なポイントになります。しかし、私はまだ表面的なことしか理解していません。地域に入り込むSUIJIのプログラムなら、もっと深く学べると思って参加しました。安田サイトに来て、まずは豊かな自然に感動し、暮らす人たちがゆったりした時間を過ごしていることにも感銘を受けました。私たちは普段、せかせかして、自分中心の行動をしています。小川の人たちは人間としての器が広いな、と感じました。SUIJIには来年も参加します。インドネシアでどんな発見があるのか、今から楽しみです。

人と人との
密接な交流に驚き

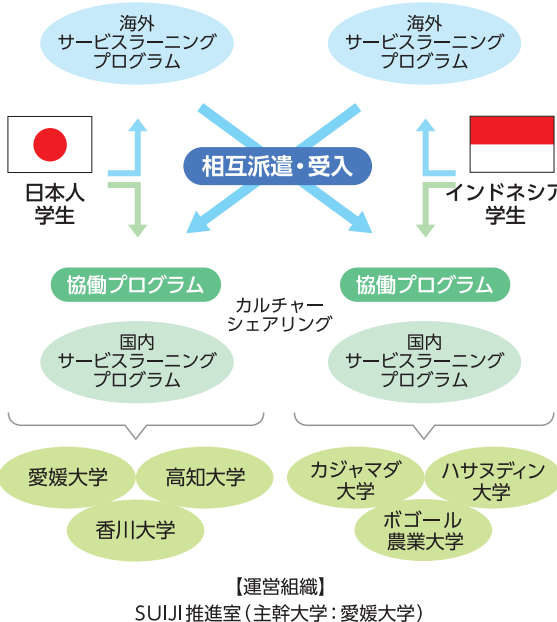
インドネシア
ハサヌディン大学 5年生
イマム・ヒダテさん



日本是非常に発展している国なので、学ぶべきことが多いと思って参加しました。安田サイトでは集落内に家が点在しており、隣の家と随分離れています。にもかかわらず、交流にまったく問題はない、と地域の方が語っていたことに驚きました。人と人の結びつきが強く、互いのことをよく知っているからこそでしょう。また、宿泊した「せせらぎの郷小川」でウェルカムパーティを開いてくれたとき、大勢集まってくれたのはうれしかった。インドネシアにはこういう地域の拠点となる場がないので、素晴らしいことだと思いました。

双方向短期派遣

6大学の学生がともに四国とインドネシアの農山漁村地域に滞在し、現実社会が直面している課題に取り組みながら学びます。



国内にある学びのサイトは高知3カ所(室戸市佐喜浜、大月町柏島、安田町中山)、愛媛4カ所、香川1カ所。「それぞれが何らかの課題を抱えた地域で、地域をどうやって元気づけたらいいのかが中心的主題」とのことです。一方、インドネシアの滞在地域は5カ所。「都市近郊の地域や山奥の不便な農村、典型的な離島など、いろいろな性格を持つフィールドを用意しています」

「あらかじめ学生にテーマを与えておくようなことはしません。ひたすら歩いて地域のことを知り、同時に、地域の人に自分たちのことを知ってもらうんです。ある程度見て回ってから、この地域ではこんなことができそう、と学生自らが主体的に活動内容を決めていきます。また、地域の人たちと話し合って、何をするか考えることもあります」

科学誌
掲載へ

研究成果が 世界的評価!



William Crawford, IODP/TAMU

1. 2015年6月29日 Nature Publishing Group刊行 Nature Communications(電子版)掲載 ベーリング海から北極海への 淡水供給についての調査結果

約330万年前の全球寒冷化現象を 増幅させた可能性を発見

池原教授らは、2009年に実施した統合国際深海掘削計画(Integrated Ocean Drilling Program (IODP))で採取されたベーリング海の海底堆積物に含まれる微化石、植物プランクトンの脂質、碎屑物の地球化学的分析から、アラスカ山岳氷河の発達が始まる少なくとも420万年前から始まっていた事を初めて明らかにし、その後のアラスカ山岳氷河の拡大に伴う夏季融氷水量の増加が北極海への淡水流入を促し、330万年前頃から始まる全球寒冷化現象を増幅させた可能性がある事を明らかにしました。



掘削コアからのサンプリング作業(高知大学)



海洋コア総合研究センター
教授

池原 実

長野県出身。東京大学大学院理学系研究科修了。博士(理学)。2001年、高知大学に赴任。NHK特集「地球大紀行」に感銘を受けて、地球科学の道へ。七つの海を制覇した海の旅人でもある。



海洋コア総合研究センター
教授

村山 雅史

熊本県出身。東京大学大学院理学系研究科修了。博士(理学)。2000年、高知大学に赴任。研究船乗船日数は1500日を越える。研究航海に行くたびに、必ず何かしらの発見がある。だから、海洋は面白い!

2. 2015年7月24日 Science(オンライン)掲載 青森県八戸市沖における地球深部探査船 「ちきゅう」による掘削調査の研究成果

地球最深の地底下微生物群集と 生命圏の限界を発見

村山教授らの研究チームは、青森県八戸市沖の海底下2,466mまでの堆積物コアサンプルを分析した結果、その中に存在する微生物群集は、堆積物1cm³あたり100細胞以下と極めて微量であり、海洋科学掘削により、世界で初めて海底深部の生命圏の限界域に到達したことを示唆しています。一方、栄養

源に富む海底下約2,000m付近の石炭層では、細胞数が100倍以上増加する傾向が認められました。この海底下に埋没した約2000万年以上前の地層に、陸性の微生物生態系(石炭の起源である森林土壌の微生物群集)に類似する固有の微生物群集が存在することを発見しました。石炭層から採取されたサンプルを用いて、下降流懸垂型スポンジリアクターによる培養を試みたところ、天然ガス(メタン)を生産する世界最深の嫌気性微生物群集の培養に成功しました。

地球深部探査船「ちきゅう」
(c)JAMSTEC

キラ★ 高知大生

学内外でキラッと光る
高知大生をピックアップ!



トレーニングで
メンタル面も強化



並外れた身体能力を持つ者たちが集い、4つの超難関ステージに挑むスポーツイベント「SASUKE」。

7月に放映された第31回大会で、何と高知大学大学院生の森本裕介さん、通称「サスケくん」(バイト仲間が命名が、史上4人目の完全制覇を成し遂げました!)

「SASUKE」に出てみたい、と初めて思ったのは7歳の時。14歳の時から本気で目指すようになり、中3の時に初出場しました」と森本さん。若く23歳ながら、これまでに8回出場。5回目からはすべて2ndステージ以降に進み、次こそ完全制覇を...と繰り返して挑戦。ついに今回、その夢を実現しました。完全制覇できた理由について、森本さんは「いかにも理系の大学院生らしく、こう分析しています。」

「計画して実行し、評価して改善する」というPDCAの習慣が身についたからでしょうね。録画を繰り返し見て、自分に何が足りなかったのかをノートに記し、次回までに何をやればいいのかを考え、トレーニングメニューを立てて取り組んでいました。

「SASUKE」の開催は年1回。次回に向けて計画を立てたら、本番の約半年前まで、まずはフィジカルトレーニングに力を入れるとのこと。時間をかけて筋力アップを果たしたら、トレーニングの内容をガラッと変えるのが森本さん流のやり方です。

「本番をイメージしながら練習するんです。実際に自分の名前を呼ばれて、大勢の観客が拍手して、赤い絨毯の上を進んでいく...とすべて頭の中でイメージ。自宅の庭に自作した「SASUKEセット」などを使って、できる限り本番を想定したトレーニングを行います」

このメンタルも重視した練習方法が功を奏し、本番でも落ち着いてパフォーマンスができたそうです。

独自のイメトレが奏功、
出場8回目で栄冠!

学会で表彰されるなど、 見事に「文武両道」

● 学業との両立

夕方まで研究して自宅に帰ってトレーニングをする日と、1日中研究に没頭する日をうまく組み合わせました。研究している間に身体を回復させ、トレーニングしている間に脳をリフレッシュさせることで、良い相乗効果が得られました!

日頃の努力が実を結び
学会で優秀発表賞を
いただきました!



「SASUKE」はよく知って、まさしく青春そのもの」と目を輝かす森本さん。一方で、学業にも全力で取り組み、文武両道の道を歩んでいました。石垣島で開催された国際学会では、英語でプレゼンテーションし、優秀発表賞を受賞。この功績から、高知大学の学生表彰も受けています。「SASUKE」で成果の上がったPDCAの考え方を勉強にも取り入れ、ポジティブに向き合えるようになり、「SASUKE効果」があったと語ります。

「気になる就職については、大阪の会社に内定。来春から故郷高知を離れ、新人エンジニアとして羽ばたきます。今後も「SASUKE」には出場しますか?と質問すると、

念願が叶って
嬉しいです!

大学院修士課程
理学専攻2年
森本 裕介さん
(サスケくん)

高知県土佐市生まれ。大学院での専門はLSI(半導体大規模集積回路)の設計。雲梯(うんてい)の日本記録保持者(425m)でもある。高知大学に進学した理由の1つは「自宅に作った「SASUKEセット」でいつでも練習できるから」だとか。

「会社には今後出たい」と伝えています。連覇するのは至難の業ですけど、頑張ります。でも、1stステージで落ちたら大変です。いまからプレッシャーが(笑)と語る森本さん。「サスケくん」の物語はまだ続きます。



史上4人目の完全制覇!
『SASUKE』と学業を両立
「サスケくん」にインタビュー

楽譜に込められた思いに迫る！

「山」の楽譜

ラボ通信

教育学部学校教育教員養成課程(音楽教育コース)器楽研究室

教員 梶原 彰人講師 × 学生 佐藤 天さん

―器楽研究室では、どのような研究をしているのですか？

梶原 楽器の奏法や楽曲分析を研究して、それが楽器の奏法を極めることにつながるよう指導しています。研究室としての集大成は卒業演奏試験とそれに伴う卒業論文ですが、2月には学生主催の定期演奏会が開催されます。2年生から4年生まで指導しますが、学年が上がるにつれて難易度の高い曲に挑戦して、最終的にそれぞれの楽器の代表的な作品を定期演奏会で発表します。私の専門はトロンボーンですが、その他、トランペットやチューバ、クラリネットなどを教えています。

―どのように指導していますか？

梶原 楽譜は作曲家からのメッセージであり、思いが込められた唯一の手掛かりです。作曲家がなぜこのような音の並びにしたのか、なぜこのような強弱の指示を入れているのかなどを、自分で読み取ることが大切だと思っています。同じ楽譜でも、そこに向き合う演奏者によって生まれてくる音楽は違ってくる。きちんと楽譜を読みこんで、さらに自分がついていく演奏をしたい。その人の音楽観になります。

佐藤 先生はまず、どう演奏したいかを聞いて、自分で答えをたどりつけるような指導をしてくれます。逃げられないので、厳しくもあるのですが、おかげで流石に「しかり考えられるようになった」と思います。

作曲家と自分の思いを重ねることで独自の音楽観が生まれます。

教育学部 人文社会科学系
教育学部 講師

梶原 彰人

愛媛県生まれ、香川県育ち。東京芸術大学音楽学部卒業、同大学大学院音楽研究科修士課程修了。トロンボーン奏者として活躍し、2014年より高知大学に着任。「ほかほか」が教える学生は、素直な子が多い。でも欲を言えば、やりたいことに向かって突き進むような野心があってもいいかな。もちろん、大学の勉強をしながらですが(笑)

音楽の魅力を伝える人材を育てたい



教育学部生涯教育課程
芸術文化コース3年

佐藤 天さん

広島県出身。小学生のころからトロンボーンをはじめ、自身の楽器を持ったのは高校2年生のとき。「音楽の先生になりたい」と思っていて、練習のために自分の楽器が必要でした。そこでおばあちゃんに頼みこんで、私の自動車免許取得のために貯めてくれたお金で買ってもらいました。

―学生によつて教え方は違いますか？

梶原 学生というよりは、演奏によつて指導は変わってきます。自己主張の強い演奏は伸び伸びとしていいのですが、やり過ぎると作曲家の意図を超えてしまふことがあるので、そういう学生には楽譜にもう一度立ち返るよう、逆に楽譜に縛られて自分を出し切れていない学生には、自分を出せと(笑)。身近な出来事に対する感情など、具体的な話をしたりしてその子なりの音楽表現を引き出そうとしています。佐藤さんの演奏は、まとまりがあつて音もきれいで、でもパンチがない。しかし、いまはすごく感情的な曲に挑戦していて、ずいぶんよくなりました。

佐藤 以前は感情をこめて吹くのが苦手でした。どうしたら感情をこめて吹けるのだろうと思えば思うほど、棒読みのような吹き方になっていました。でも、最近は感情を表現するのが楽しくなってきました。

―梶原先生は着任以来、県内で演奏活動を多数行っていますね。

梶原 残念ながら高知県は、クラシック関係の演奏家によるコンサートがあまり多くはありません。クラシックに関して距離を感じている人が多いのかもしれませんが、少しでも距離を縮めることができれば、

―演奏林を持つている大学は27ありますが、ほかではなかなか開催できないようです。高知大学で可能になったのは、新しい取り組みを許容する自由な学風があるからではないでしょうか」と長井さん。高知大学の演奏林は小規模ではありますが、利用の頻度では全国でもトップクラス。「演奏林トランシーブス」も高知大学ならではの有効利用の1つです。

演奏林とは何か、走りながら理解を

「演奏林トランシーブス」の人気の秘密は、変化に富んだコース設定にあります。長井さんの考えは―

「教育・研究のフィールドである演奏林がどのような場なのか、多くの人に知ってもらいたい」というのが大会の趣旨です。この考えから、間伐されたきれいな人工林の中を行く道、重機がやと通れる細い林道、広葉樹林の森を縫う登山道など、多様な環境の道をコースに入れています。

累積標高差は2400mで、相当なきつさ。四つん這いにならないと進めない急傾斜の難所もありますが、「走り切った人は皆、良いコースを走ってくれます」と話します。

―演奏林を持つている大学は27ありますが、ほかではなかなか開催できないようです。高知大学で可能になったのは、新しい取り組みを許容する自由な学風があるからではないでしょうか」と長井さん。高知大学の演奏林は小規模ではありますが、利用の頻度では全国でもトップクラス。「演奏林トランシーブス」も高知大学ならではの有効利用の1つです。

―大会を続けられ、それだけ高知大学の名前が広まります。もう簡単にやめるわけにはいきません(笑)と長井さん。オンラインワンのトラン大会として、これからも愛好者の注目を集めそうです。



物部総務課フィールド技術室
嶺北フィールド係長
高知大学農学部演奏林
トラン大会実行委員長

長井 宏賢

高知大学農学部卒業。技術職員として演奏林の維持管理に携わる一方、大学院に在籍し森林の調査研究も行う。国内外のトラン大会に積極的に参加するほか、高知県を12日間かけて一気に駆け抜けた「Tosa Boacer Trail」など、超人的な個人プロジェクトも実行中。



多様なタイプの森や
舗装していない山中を
走り抜けます！

Action!
地域×高知大学

農学部演奏林

トレイルランニングレース

全国唯一、演奏林が舞台のトラン大会

250人が参加し、
リピーター6割

最近、人気上昇中のトレイルランニング。一般道ではなく、未舗装の山道走る新しいスポーツです。このトランの大会を、高知大学では全国唯一、大学の演奏林を舞台に開催しています。今年で8回目を迎えた「高知大学農学部演奏林トレイルランニングレース」(ミドルクラス30km、ショートクラス15kmなど)。7月5日に開催された大会には、16都府県から約250人が参加。約6割がリピーターで、募集するとほとんど定員が埋まり、キャンセル待ちになったという人気ぶりです。

「大学の演奏林をもっと幅広く活用するための取り組みです。学生から、最近人気のトレイルランニングがいいのでは」という意見が出されてスタートしました」と運営の中心的役割を担う技術職員、長井宏賢さんが話します。当初の参加者は30人程度。もっと多くの人に参加してほしいと、長井さんはほかの大会などに参加して、運営のノウハウなどを学び、人気レースに育ててきました。



物部総務課フィールド技術室
嶺北フィールド係長
高知大学農学部演奏林
トラン大会実行委員長

長井 宏賢

高知大学農学部卒業。技術職員として演奏林の維持管理に携わる一方、大学院に在籍し森林の調査研究も行う。国内外のトラン大会に積極的に参加するほか、高知県を12日間かけて一気に駆け抜けた「Tosa Boacer Trail」など、超人的な個人プロジェクトも実行中。



他の大会に比べて
参加する人が出るほど
好評のオリジナル
Tシャツです。

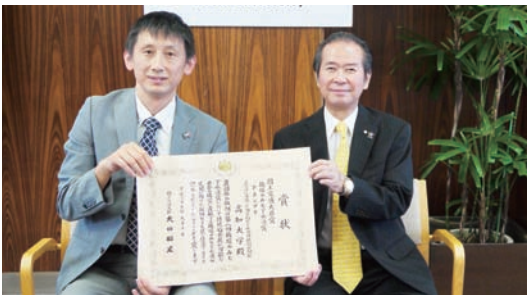
国土交通大臣賞 (循環のみち下水道賞) グランプリ受賞

高知大学(農学部門 藤原拓教授)、香南市、高知県、日本下水道事業団、前澤工業株式会社の5者による「産官学が連携した効率的な下水処理技術の開発」が、平成27年度(第8回)国土交通大臣賞(循環のみち下水道賞)グランプリを受賞しました。

「循環のみち下水道賞」は、下水道の使命を果たし、社会に貢献した好事例を表彰する国土交通大臣賞として平成20年度から毎年表彰を行っているものです。

地方の中小都市では、人口減少下における長期的な水量変動が予想される中、財政状況の悪化や施設の老朽化、省エネ化等の観点から、「汚水処理の最適化」を推進する必要に迫られています。

本プロジェクトは、このような地方公共団体単独での解決が難しい課題に対し、産官学が連携し「低コスト・省エネ」を可能とする効率的な下水処理技術の開発・実証を行い、香南市の下水処理場2箇所で導入して、課題解決と普及展開に取り組んだことが、同様の課題をもつ地方公共団体のモデルケースとなる先進的な取り組みであると評価されました。



川田 尚弘 特任助教がユニバーシアード競技大会に サッカーユニバ日本代表コーチとして参加

地域連携推進センターの川田尚弘特任助教が、7月3日から韓国・光州で開催されたユニバーシアード競技大会にサッカーユニバーシアード日本代表コーチとして参加しました。日本代表チームは、準決勝でイタリアに敗れたものの、3位決定戦でブラジルに勝利し、見事銅メダルに輝きました。

川田特任助教は、筑波大学大学院やドイツ国立ケルン体育大学でサッカーのコーチングを学んだ後、ブンデスリーガ1部(ドイツ)のボルシアMGのユースチーム専属プロコーチをはじめ、ハノーファー96強化部日本スカウト担当、1FCケルン強化部スカウト担当等を歴任し、平成27年4月に高知大学地域連携推進センター特任助教に就任しました。

現在、高知大学体育会サッカー部のコーチを務めるほか、高知Uトラスター(四国リーグ)の監督として、高知県サッカーのレベル向上のために活躍しています。



◀代表選手とランニングを行う川田特任助教

写真提供
(一財) 関東大学サッカー連盟
Photo/JUFA/Reiko Iijima

合唱団が全日本合唱コンクール全国大会出場へ

高知大学合唱団は、8月29日にサンポートホール高松(高松市)で行われた「第68回全日本合唱コンクール 四国支部大会」(全日本合唱連盟四国支部、朝日新聞社主催)において大学ユースの部で金賞を受賞し、四国代表に選ばれました。

この結果、11月21日に長崎ブリックホール(長崎市)で開催される全国大会に出場します。



「2015カツオセミナー in 高知」を開催

高知大学と黒潮町が連携して運営する日本カツオ学会が、7月11日、朝倉キャンパスにおいて「2015カツオセミナー in 高知」を開催しました。

今回はカツオの「食」をテーマに、「農産物の機能性解明と新たな機能性表示制度」、「かつお節の栄養機能について」、「鰹節に含まれる栄養・機能性成分の瞬時分析～DHA、EPAを例に～」の講演が行われました。

日本カツオ学会は、カツオ産業・文化の振興に資する様々な活動を展開していますので、ご興味・ご関心等ございましたら、日本カツオ学会事務局までご連絡ください。



日本カツオ学会
日本カツオ学会HP
<http://www.katsuo-gakkai.jp/>

◀セミナーの様子

学会賞受賞等紹介 平成27年5月～8月までの教職員が受賞したものをご紹介します。

医学部附属病院
田村 恵理 初期臨床研修医

「集中治療室患者における血圧・脈拍変動と予後との関連」
第26回日本臨床モニター学会総会 優秀演題賞

医学部附属病院
横田 啓一郎 初期臨床研修医

「急激な経過をきたしたNBTE・Trousseau症候群の1剖検例」
第112回 日本内科学会四国地方会初期臨床研修医 奨励賞

医学部臨床看護学
川村 巧成 技術補佐員

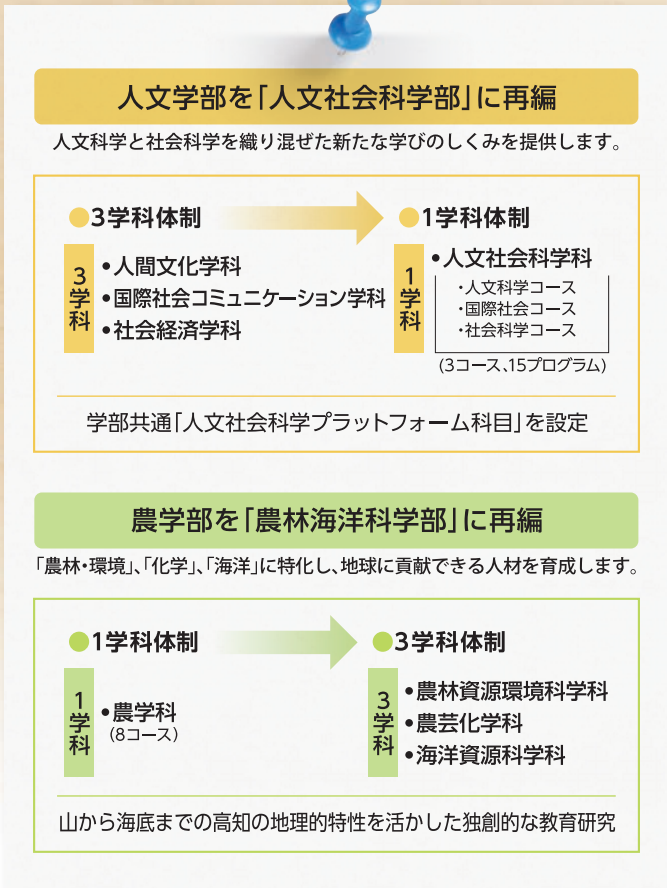
「精製β-グルカンのナチュラルキラー細胞活性誘導能の検証」
第7回日本静脈経腸栄養学会四国支部会学術集会 奨励賞

土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業

高知大学地域連携推進センター土佐FBCⅡ企画運営室 吉金 優 特任准教授 中島 悦子 特任講師

「他のモデルとなる先端的産学連携活動を行い、業績を上げたことに対し」
2015年度産学連携学会 業績賞

平成28年4月 「人文社会科学部」「農林海洋科学部」が誕生します



高知大学は「地域・社会の要請」「今日の学生のニーズ」に応えるため、これまでの高知大学の教育研究の強みと特色を活かして、学部教育組織の再編を進めています。この再編は、「地域協働学部」の新設(平成27年4月)というチャレンジに始まり、人文・教育・理・農の4学部が地域志向した学部へ3年にわたり連続して改組を行います。

平成28年4月には「人文学部」を「人文社会科学部」に、「農学部」を「農林海洋科学部」に再編します。



人文社会科学部

農林海洋科学部

四国森林管理局と農学部が 連携協力協定を締結

四国の国・公有林の管理経営、森林管理署の指導監督などを主な業務とする林野庁四国森林管理局と高知大学農学部が、7月27日、連携と協力に関する協定を締結しました。

この協定は、それぞれの人材や資源の活用を図りながら、森林の有する多面的機能の持続的発揮及びその実現のための森林・林業の再生、そしてそれらを支える循環型社会の形成に資する調査研究及び人材育成等の推進を図る目的で締結されました。

今後、農学部は、木質バイオマス利用やシカによる森林被害など森林管理局の新たな課題に対して、高度な知見の提供などを通じて協力していく他、国有林の多様な森林を活用して、今後の森林農業をささえる人材の育成や、技術の研究を行っていきます。



▲協定締結後に握手を交わす浅川京子四国森林管理局長(当時)と石川勝美農学部長

「電解水素水を活用した 還元野菜プロジェクト」について 連携協定を締結

高知県庁にて7月3日、「電解水素水を活用した還元野菜プロジェクト」推進についての連携協定締結式を行いました。

この連携協定は、南国市、南国市農業協同組合(JA南国市)、高知県、国立大学法人高知大学、株式会社日本トリムの5機関が、産学官相互の連携により、南国市が「南国市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の農業振興策として位置付け、同市とJA南国市が中心となって取り組む「電解水素水を活用した還元野菜プロジェクト」を推進するためのもので、次の事項について連携協力していきます。

- ①「電解水素水」の農業分野への活用による効果や機能性等の検証
- ②「還元野菜」ブランドによる野菜の生産拡大
- ③「還元野菜」の里づくり
- ④ その他目的達成のために必要な事項



通常のの水を使用
電解水素水を使用



▲右から、高田幸一(南国市農業協同組合代表理事組合長)、脇岡宏(高知大学長)尾崎正直(高知県知事)、森澤紳勝(株式会社日本トリム代表取締役社長)橋詰壽人(南国市長)

高知大学ニュース